

# 郡山市ふれあい科学館 スペースパーク —福島で宇宙を語る—

安藤 享平

〈郡山市ふれあい科学館 〒963-8002 福島県郡山市駅前2-11-1 ビッグアイ 20～24階〉

e-mail: kyoando@space-park.jp

郡山市ふれあい科学館は、開館12年目を迎える科学館です。常設展示およびプラネタリウム、そして館外での活動を通して、子どもから大人まで多くの方々を対象に「宇宙の中の私たち」をコンセプトに事業を実施しております。現状を含め、活動状況をご紹介します。

## 1. 施設の概要

JR東北新幹線の郡山駅から徒歩1分のところにある24階建てのビル「ビッグアイ」の最上階部分に当館はあります。残念ながら、新幹線の窓からその姿を見ることはほとんどできませんが、高速道路などからは、ビルの上部に球体が挟まった“i”の姿を、相当離れた場所からも見るができます。

平成13(2001)年10月、21世紀を迎えた年に、県内初の理工系科学館として郡山市が設置しました。ビルのフロアごとに、宇宙をメインとした常

設展示の「展示ゾーン」、メインエントランスと地上100mからの景色を楽しむ「展望ロビー」、そしてプラネタリウムを設置した直径23mドームの「宇宙劇場」、各種講座を実施する「研修ゾーン」とで構成され、展示ゾーンおよび宇宙劇場の有料入館者数は年間約15万人です。

## 2. 宇宙新体感！ プラネタリウム

当館のプラネタリウムは、今年4月28日にリニューアルしました。プラネタリウム・スーパーヘリオスの美しい星空とともに、新たに全天ビデオシステム・五藤光学研究所製のバーチャリウムⅡが加わり、スクリーン全体にさまざまな映像、宇宙の姿を自由に映し出すことができるようになりました。

当館のプラネタリウムは約45分間、基本的にすべて生解説で行っております。年齢・テーマ別のプログラムそれぞれで、5名のスタッフが手元で機器を操作しながら、そのとき観覧している方の反応などをつかみながらご案内しています。

運用して半年ほどですが、「デジタルプラネタリウム」機能は、多くの人を美しい星空から奥深い天文学へと誘うのにも効果的なツールだと実感しています。星たちの間に隠れる天体の姿を映し出したり、天の川の姿を多波長で見たりといった



図1 当館の入るビッグアイ全景。

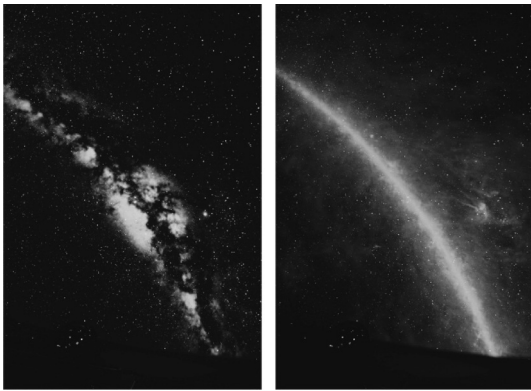


図2 プラネタリウムで投映した可視光（左）と赤外線による天の川。ワンタッチで表示・切り替えが可能。

ことが即座にでき、プラネタリウムでの「普段の話題」から引き出される話題が非常に多様になりました。解説するスタッフの力量もより問われるようになりましたが、天文学の成果を伝え、観覧された方々が宇宙観を構築していく場としてのプラネタリウムの可能性をリニューアルで再認識しました。

### 3. 天体観望会の実施

高層ビルにあるため、館内に天文台は設置されておりません。代わりに移動式の望遠鏡を持ち運んでの天体観望会を実施しております。

当館の目の前にある、JR郡山駅西口の駅前広場では冬季を除く毎月「駅前観望会」を開催しています。自由参加で、駅前を行き交う多くの方にお立ち寄りいただき、天体の姿を望遠鏡で見ていただくとともに、目で見上げて星や月が輝く様子をご紹介します。特に「望遠鏡で星を見たことがない」、「星なんて…」とおっしゃる方が大歓声を上げて感動されます。何気なく歩いていたら街角で星を見る機会があった、そんなシチュエーションを作ることは、宇宙に触れていただけるきっかけとして重要な場と思います。普段科学館に足を運ぶ来館層とは違う方にアプローチできる、とても大切な機会となっています。

そのほか、市内各地の公民館に出向いて地域で星を見る天体観望会「星の宅配便」も実施しています。居住している地域において、星を見上げるといことで、星空が身近になり、日常生活の中でも星を話題にするきっかけが増えれば、と定期的に開催して市内全域を回れるようにしていました。

そのほか、依頼による講師派遣で各地に出向いての活動も含め、これまで年間30件ほど実施していました。しかし昨年の震災以降、地域での実施や派遣依頼は非常に数が少なくなってしまい、今年度もこれまでと比べ数が少ない状況が続いています。

### 4. 講座および館外活動

生涯学習活動の一環として、ボランティア活動の受け入れを行っております。「スペースパークボランティアの会」には100名以上が登録し、展示ゾーンでの科学工作指導などで活動されていますが、天文ボランティアの方々も天体観望会での活動や、地域での写真展の開催など、館内外で精力的に活動されています。

また、星空案内人資格認定講座も開講して6年目となるなど、さまざまな事業の中で、星や宇宙をより知りたいという探究心をもつ方が、科学館に集ってくださるようになりました。これは、当館の活動が地域の中に浸透し、認知されてきたことの一つの表れとして、非常にうれしい傾向ととらえています。

このほか、講師の方をお招きして、より専門性の高い内容を紹介する講演会や講座も定期的に実施しております。

### 5. 特殊な現状に立ち向かう

昨年の東日本大震災と、それによる原子力災害は今なお福島県内に多くの影響を残しており、それは科学館活動にも出てきています。

いちばんの影響は屋外活動に対するもので、昨

年度までは市内の小中学生はいわゆる「3時間ルール」といって、一定時間以上の屋外活動を学校含め抑制する方針を取りました。その結果、前述のような地域での天体観望会など、屋外での活動については、事業の実施自体を自粛する方向となりました。今年度は「3時間ルール」はなくなりましたが、まだ実施に慎重な状況が続いています。これは地域による空間線量の違い、住民・保護者の考え方がそれぞれで、一致することが少ないなど、さまざまな要因があります。

来館者の居住地域も、これまで来館の多かった隣県など県外からは激減しており、県内からでも地域により減少傾向が大きく出るなど差が出ている状況です。これも空間線量のとらえ方によるところが大きいと考えています。

一方で、小学校低学年などの低年齢層の学校団体での利用が増えました。これは遠足で公園や牧場など、これまでのように屋外施設に行けないという状況によります。理由を考えると複雑な心境になりますが、低年齢から天文・宇宙に親しみ今後につなげていくきっかけとなるとともに、何より楽しい思い出に残る時間を過ごしてもらいたいと思い、子どもたちに接しています。

こういうときだからこそ、またこういう状況下であるからこそ、当館が果たさなければならない役割は大きいと考えています。私たちの「ふるさと」とは、私たちの存在とは、宇宙のどのようなところにいるのか、といった、天文教育の原点といえる、宇宙観を市民・県民の方々にもっていただくことが、明日への力になっていくと考えています。

## 6. 福島・郡山にお越しください！

現在、県内各地には「モニタリングポスト」が設けられています。学校の校庭でも、当館が行っ

ている駅前観望会の会場である郡山駅前の広場でも、「\*\* $\mu\text{SV}$ 」という数字が一目で見られます。これが現実です。

しかし、福島県は非常に広く、特に会津地方では空間線量は低い状況ですが、観光面で非常に厳しい状況にあります。郡山市も新聞を見ると0.5  $\mu\text{SV}/\text{h}$ 程度ですが、当館の館内は0.06程度、郡山駅前で0.25程度です（今年9月末時点）。測定する場所によって違いもありますし、地域による違いも大きくあります。また、この数値をどう評価するかも、それぞれの方によるでしょう。

しかし前述のとおり、現在私たちの施設ははじめ福島県内においては天文教育普及活動の重要性が特に大きいと考えますし、現状を多くの方に理解していただきたいと思います。ぜひ福島県にお越しいただき、直接ご覧いただければと思いますし、何より風光明媚で人も自然も素晴らしい場所である、福島県・郡山市をお楽しみいただければ幸いです。

そしてお越しの際は、福島県内各地の玄関口にある当館にもぜひお立ち寄りください。もれなく、講座の講師としてセッティングさせていただきます！

郡山市ふれあい科学館 スペースパーク

Koriyama City fureai Science Center

福島県郡山市駅前二丁目11番1号

ビッグアイ 20～24階

電話：024-936-0201

ファックス：024-936-0089

ホームページ：<http://www.space-park.jp/>

アクセス：

JR郡山駅（東北新幹線・東北本線・磐越東線・磐越西線・水郡線）西口から徒歩1分  
東北自動車道「郡山IC」から車で約20分